

織田信長（中央）らが描かれている
『武功夜話』の絵解き



戦国史料『武功夜話』を

絵解き本に編集

戦国時代に活躍した織田信長、豊臣秀吉の若き姿が生き生きと描かれた古文書『武功夜話』。昭和34年に江南市前野町の吉田家で発見されてから半世紀がたった今、分かりやすい絵解き本にするための編集作業が進められています。

武功夜話を執筆したのは、吉田家の先祖・吉田孫四郎雄翟（1586〜1658）。昭和61年には子孫の吉田蒼生雄さん

若き日の信長、秀吉も登場

による全訳本が発行されました。

一方、兄吉田龍雲さん（平成20年5月没）がその一部を軽妙なタッチの戯画にし、全6巻の絵巻物に仕上げていました。

編集作業を行っているのは犬山市上坂町でデザイン会社を経営する高田和之さん。趣味の歴史を調べている時、吉田家で行われている歴史研究グループ「南窓庵」のメンバーと知り合いになり、

絵解き本の製作を手掛けることになりました。

高田さんが絵巻に描かれた桶狭間の戦い、墨俣一夜城、浮野原合戦など歴史的出来事を105カットに分け、同研究会のメンバー、高田健三さんがそれぞれの絵に解説文を添えます。

「戦国時代における尾張の動向、信長、秀吉ら権力者の動向が分かりやすく。歴史通はもちろん、大人から子どもまで読み

やすいものになりたい」と高田さん。

ただ今、同社のホームページで一部を公開中です。アドレスは www.ater.co.jp